

南朝正平十二年 北朝延文二年十月十四日

五〇二

延文二年十月十二日

(義詮)
(花押)

赤松帥律師御房

○義詮、則祐ヲシテ、若狹前司江左衛門等ノ濫妨ヲ停メシムルコト、延文四年十月二十五日ノ條ニ見ユ、

十四日、乙酉大乘院僧徒、一乘院ノ僧徒ト戰ヒ、前門主實玄及ビ良玄ヲ逐フ、

〔園太曆〕

三十

十月十六日、天陰、今日兩門合戰事度々在之、依無益不寫之、南都宣緣法眼送狀、一乘院事示之、

其後者彼方沙汰以外嚴密之間、若君御近邊止住了、此間(粉)紛骨計略無申計候き、

而一昨日(四力)日、十三一乘院、花林院以下沒落了、簀川禪師實玄、二條良玄、同道了、

實玄良玄
沒落

兩門合戰
度々

寺門早速屬靜謐候、目出候、定被悅思召候、んすらんとて申入候、但彼謀反以下、猶無心本候、仰冥慮之外無他候、以此旨、可令申入給、宣緣誠恐頓首謹言、

十月十六日

宣緣上

丹波守殿

此事、又追實遍法印示之、彼狀雖同前、猶載委細、仍續之、